社会教育実習と社会教育演習

社会教育主事課程には、必修科目の社会教育実習、選択必修科目の社会教育演習が設けられています。実習で体験したことを演習でふり返り、学びを深めます。

社会教育実習では、地域や施設などで、学習事業の企画や学習活動の支援に実際に関わります。実習と演習を通して企画力・実践力・コミュニケーション力を身につけることができます。

◎実習先は、教育委員会、社会教育施設（公民館、子ども・若者施設、男女共同参画施設など）、市民団体・NPO（青少年教育、環境保全、開発教育、芸術活動など）から選択します。

◎実習先は、自分の生活形態や通学状況に合わせて、都合のよい施設・機関を選びます。

◎実習は、7月の後半から12月の間に行います。事前指導で実習目標を立て、中間指導・事後指導で実習のふり返りを行います。



社会教育実習における実習生の様子
（川崎市麻生市民館で自分たちの立案した企画を実施）

社会教育士とは

社会教育主事とは教育委員会に配属される専門的教育職員ですが、2020年度以降に入学した学生がこの資格を取得すると「社会教育士」の称号も同時に付与されます。「社会教育士」は、業種や職種によらず、履歴書や名刺に記載することができます。

詳しくは、文部科学省の「社会教育士」のWebページもご覧ください（下のQRコード）。

履修の際には「資格課程履修の手引き」をご参照ください。ご不明な点があれば、社会教育主事課程担当の荻野（教育学科）までお問い合わせください（下記メールアドレス）。

日本女子大学
社会教育主事課程

担当：人間社会学部 教育学科
荻野亮吾（准教授）

〒112-8681　東京都文京区目白台2−8−1
電話 03（5981）7500（教育学科中央研究室）
Email: shakaikyouiku@fc.jwu.ac.jp（荻野亮吾）

（2026.3）

企画力・実践力・コミュニケーション力が身につく

社会教育主事課程
（社会教育士）



地域の話し合いの場でのファシリテーションの様子
（滋賀県近江八幡市で実践の場に参加）

日本女子大学

人間社会学部・国際文化学部

2026年度版

社会教育主事とは

社会教育主事とは、都道府県や市町村の教育委員会で仕事をする専門的教育職員です。青少年教育やまちづくりに関する教育の計画づくり、学習・スポーツ・レクリエーションの活動を行う人たちへの助言や指導、学校と地域との連携の促進など、さまざまな場面で活躍します。

学習社会や知識基盤社会といわれ、地方創生、地域コミュニティづくり、地域と学校の協働が重要となっている現代において、とても大切な役割を担う職種です。

社会教育主事課程を修了すると、同時に「社会教育士」の称号も取得できます。



資格課程科目における授業風景
（子どもの貧困問題に対する取り組みの説明）

資格を取るメリットとは

☆仕事に役立つ！

社会教育主事課程を履修すると、社会教育主事の資格が得られる他、「社会教育士」という称号が得られ、次のような仕事にも役立ちます。

●学校の教員として、地域や家庭と連携・協働した教育活動に取り組む
●公務員として、まちづくりの仕事に関わる
●企業で教育関係のビジネスに取り組む
●NPOや社会的企業で働く

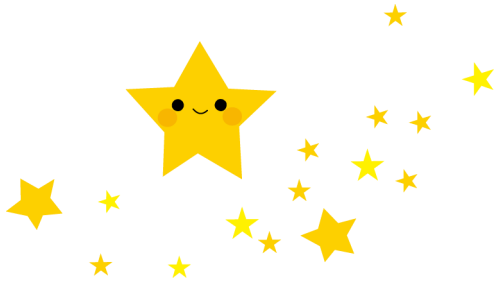
※「社会教育士」の詳細はこのリーフレットの裏表紙をご参照ください。

☆就活にも役立つ！

授業では、参加型・体験型の学習を行うので、企画力・実践力・コミュニケーション力が身につきます（生涯学習支援法Ⅰ・Ⅱ、社会教育経営Ⅰ・Ⅱ、社会教育課題研究、社会教育実習、社会教育演習）。

☆あなたの人生を豊かにする！

地域や職場、学校でのさまざまな学びにふれることによって、自分自身の生涯学習や子育てなど、生涯にわたって人生をつくりあげていく基礎的な素養を身につけることができます。



卒業生からのメッセージ

●教育委員会勤務、2023年度卒業

社会教育主事課程の講義では、様々なアプローチの仕方で地域に関わる人がいて、その関わるきっかけづくりを社会教育が担っていることを学びました。多くの事例を講義で知れたことが現在の仕事にも活きていると思います。

現在、私は教育委員会事務局で、青少年委員やＰＴＡの活動支援、家庭教育講座の企画・実施などを担当しています。社会教育主事課程での学びが、地域に入り込むコミュニケーションのヒントになったり、企画を練る際のヒントになったりと、インプットした知識がアウトプットできていると感じています。

●小学校勤務、2024年度卒業

社会教育主事課程の講義では、学校という枠にとどまらず、地域や人との関わりの中で子どもが育っていくことを学びました。ユースワークの現場におけるボランティア活動を通して身につけた「事実・見立て・対応」という支援の視点や、「今この瞬間」だけで支援を捉えるのではなく、長い目で子どもの成長を見通す視点は、現在の教育活動における大きな土台となっています。

社会教育主事課程での学びは、どのような進路に進んだとしても、人や社会を多面的に捉える力として生き続けるものだと思います。

●地方銀行勤務、2022年度卒業

現在、地方銀行で融資課の一員として働いています。社会教育と銀行業務は一見交わることのないような二つだと思われるかもしれませんが、実際に働いてみて様々なつながりを発見することができました。最も大きなつながりだと思ったことは、相手の将来を創造し、そして支えられることであると思います。それはつまり、「コミュニケーションを通じて信頼し合える関係性をつくり、一緒に歩んでいく」ということであると私は思いました。

得たことを生かして、多くの個人・法人のお客様の現在から未来へと支えられるような行員になれるよう頑張っていきたいと思います。